

MJO (medical jazz orchestra) の紹介



おろくハートクリニック 知花 幹雄

MJOというユニークな面白いジャズバンドがある。その生い立ちから現在までの足跡を紹介する。

このバンドが誕生したきっかけは、今から21年前の1990年の10月に県立那覇病院の中で一番忙しい集中治療室で、重症患者を診るために泊り込んでいる二人の医師のある会話から始まった。脳外科の猪野屋博先生が心臓外科の私に『先生、12月の忘年会の余興で1位になればラジカセがもらえるらしいよ。医局でバンドを組んで出てみようよ。』と言った。私は冗談だと思ひ、『いいね、できるといいね。』と答えただけだった。ところが数日後に、猪野屋先生が『知花先生、琉大産婦人科にドラムセットがあって、今はメンバーもいなくてほこりをかぶっているというから、借りてきたよ。』とドラムセットをもってきたのを見て、『猪野屋先生、本気だったの!』と私は驚き、早速メンバーを探し回って9人編成の『バンド』を発足して練習を開始し、12月14日の忘年会でデビューしたのだった。まず、『ジングルベル』に始まり、次いで『枯葉』を演奏、最後にワイルドワンズの『思い出の渚』を歌うというトンチンカンな構成であったが、多いに受け、1位のラジカセを手に入れることができた。職員からは『県立那覇病院の文化レベルが一段と高いものになりましたよ!』と絶賛され、院長から『研修棟のあいている部屋を部室にして使ってもいいですよ。』と病院の正式なクラブとして認めていただいた。

メンバーにとっては、このバンドでの週1回の練習はいいストレス解消になり、忙しい日常の仕事や術後管理の合間に息抜きのできる機会

を与えてくれるものであった。しばらくして、『那覇病院でバンドをつくった』ということを知った新田クリニックの新田武司先生が『是非自分もメンバーに入れて欲しい。』と申し出、新田先生が加わるようになった。新田先生は、長崎大学入学後、医学部にジャズバンドを立ち上げたが、医学部では物足りず、それを全学に広げ、『長崎大学スウィングポートジャズオーケストラ』を設立した先生である。その新田先生が高校時代のバンド部の仲間で医療関係の仕事をしている人たちに次々と連絡してくれて、あっという間に20人を超え、グレンミラー楽団(17人)よりも大きな、まさにビッグバンドができあがったのだった。医療関係者だけではなく、ジャズが大好きでメンバーに加わりたいという知人も加わってもらい、新田先生に『県立那覇病院スウィングジャズオーケストラ』という名前を付けてもらった。とりあえず、グレンミラーとベニーグッドマンの音楽からやろうということになり、まず『ムーンライトセレナーデ』から始まり、『真珠の首飾り』、『アメリカン・パトロール』、『タキシード・ジャンクション』、『シング・シング・シング』など、昔懐かしいビッグバンドの曲を次々とこなしてゆき、『闘牛士のマンボ』、『エル・マンボ』、『マンボNo.5』、『マイアミビーチ・ルンバ』などのラテン曲や、『マイウェイ』、『シャレード』などのポピュラーな曲も手がけ、現在レパートリーは200曲を越えた。ドラムスの平安明先生(平安病院理事長・沖縄県医師会理事)とベースギターの仲吉博彦先生(小禄クリニック院長)の二人がメンバーに加わってからは素晴らしい演奏ができるようになった。途中、県立那

覇病院のメンバーが転勤や開業などで減っていたため、バンドの名前は medical jazz orchestra (MJO) と改名した。

県立那覇病院で誕生し、毎週木曜日の夜8時から10時頃まで、それぞれ忙しい仕事が終わってから県立那覇病院の研修棟の部室に集まり、これだけの演奏ができるようになったのはジャズに対する情熱と、また演奏することによって、それぞれのストレスが発散され、日常生活がリフレッシュされる喜びを感じているからだと思う。しかし、県立那覇病院が新川に移転して旧県立那覇病院が取り壊されてからはルーチンに練習する場所が無くなってしまった。その後は有料貸しスタジオなどを借りて、年1回のレギュラーコンサートをめどにして、メリハリをつけて楽しみながら週1回、演奏の練習を続けていた。

そして一昨年、メンバーから『新聞に「県立南部医療センター・こども医療センターが赤字のため、独立行政法人になって県から離れるかもしれない。ついては、県立病院の赤字解消のために一般から寄付金を募る」という記事がでていたが、我々のバンドを生んでくれた病院のために何かやるべきじゃないか?』という声があがり、皆の賛同で、2009年8月2日にパレット市民劇場において『いつもありがとう! 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター』と銘打って、チャリティーコンサートを開催した。会場へは沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの大久保和明院長ほか数名の先

生方を招待した。県立病院の赤字を懸念して少しでも寄付できればと企画したチャリティーコンサートであったが、その1カ月前の新聞に「2008年度の県立病院の決算は19年ぶりに現金ベースの損益で約3億円を超える黒字になった。そして、最大の問題となっていた不良債務(累積38億円)は公立病院特例債の活用などでゼロになった。」という記事が出た。頑張った県立病院をまさに天が助けて下さった出来事だった。そのことを満席の403名の観客に報告したところ、県立病院のために尽力されておられる大久保院長ほか県立病院の先生方へ盛大な温かい拍手が送られた。金額は10万円であったが、それ以上の勇気と感動を県立病院と観客へ与えられたと思う。

そして、去年11月7日には、自殺防止のために尽力されている社団法人『沖縄いのちの電話』を支援することと『MJO 創立20周年記念』をかねて、那覇市民会館大ホールにおいて、スペシャルゲストの平・ゆきさんにウチナーテン音楽も唄ってもらい、盛大なチャリティーコンサートを開催した。チケットは前売りで1,200枚以上売れ、大雨であったにもかかわらず、928名の方がご来場くださり、お蔭さまで『沖縄いのちの電話』へ20万円の寄付金を贈呈することができた。

今後も沖縄県のため、チャリティーコンサートは続けたいと思っていますので、皆様の温かい御声援と御指導・御鞭撻をよろしく願いたします。



平成22年11月7日 (チャリティーコンサート：那覇市民会館大ホール)

//////////////////// いきいきグループ紹介 //////////////////////

<沖縄県医師会のメンバーは以下の7名（敬称略・年齢順）>

No.	氏名	医療機関名	診療科
①	新田武司	新田クリニック	(産婦人科)
②	知花幹雄	おろくハートクリニック	(循環器科)
③	中里和正	ウィメンズクリニック	(産婦人科)
④	仲吉博彦	小禄クリニック	(耳鼻咽喉科)
⑤	新里仁哲	大浜第一病院	(放射線科)
⑥	平安 明	平安病院	(精神科)
⑦	波平智雄	平安病院	(精神科)



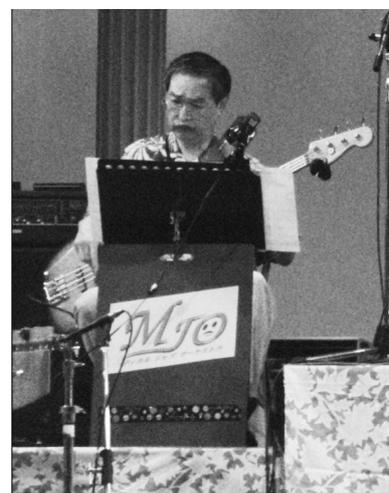
新田武司先生（新田クリニック）：
テナーサクソ



知花幹雄先生（おろくハートクリニック）：ピアノ



中里和正先生
（ウィメンズクリニック）：
アルトサクソ



仲吉博彦先生（小禄クリニック）：
ベースギター



新里仁哲先生
（大浜第一病院）：
トロンボーン



平安 明先生（平安病院）：ドラムス



波平智雄先生（平安病院）：ギター